

被爆80年、核絶対否定を世界へ

8月5日(火) 午後2時～4時半

RCC 文化センター7F

広島市中区橋本町 5-11 Tel : 082-222-2277

被爆80年という節目の年を迎えました。広島、長崎への原爆投下によって、その年末までに約21万人が亡くなりました。年月の経過とともに、生存被爆者の減少と高齢化が顕著となっています。

「ヒバクを許さない集い」は、1999年秋に茨城県東海村で起こったJCO事故（ウラン燃料製造工場で起きた日本初の臨界事故）に対する国の責任追及と住民・労働者の健康被害の補償を求める運動の高まりを背景に、原水禁大会のひろば企画として、2000年より開催されてきました。

今、私たちは大きな分岐点に立っています。ロシアによるウクライナ侵略戦争での核使用の威嚇、イスラエルによるパレスチナ・ガザ地区への虐殺やイランの核施設への攻撃、アメリカによる介入・爆破攻撃となって現れています。これらは被爆者や世界の非核・反核の運動が打ち立ててきた「核のタブー」を打ち壊し、核拡散防止条約（NPT）違反を繰り返し、核兵器禁止条約が成立した世界を、核拡散、核使用の危機に向かわせるものです。

国内では、軍事費の急膨張・軍力強化、核兵器禁止条約に反対し非核3原則を踏みにじるアメリカとの核共有の動き、福島原発事故ヒバクの被害は無いなどとする「原発回帰」の動きとなっています。

昨年「日本被団協」にノーベル平和賞が授与されました。被爆者の功績が評価されたとともに、これからの私たちの運動への期待として、重く強く受け止めなければなりません。

原爆投下から80年、再び戦争や核軍事力の強化が進められ、原発拡大が行われようとしている今、私たちは、ヒバクを許さない新たな取り組みの必要性を感じています。

親世代の被爆者の体験を思い起こし、改めてこれからの核なき世界への希望・思いを語り、その実現に向けた行動を起こす「集い」としたいと考えます。



今や、人類滅亡の終末時計は残り89秒

◆◆◆◆◆ ヒロシマからの提言 ◆◆◆◆◆

タイトル1 被爆80年にあたって被爆二世から問う！

あの日から今 そして未来へ ヒロシマの心をつなぐ

◆お話し 伊達 純 原発はごめんだヒロシマ市民の会

タイトル2 ヒロシマと原発

原発推進に利用された被爆地

◆お話し 木原 省治 広島市原爆被害者の会



■主 催 原子力資料情報室・双葉地方原発反対同盟・原発はごめんだヒロシマ市民の会・ヒバク反対キャンペーン

■問合せ 〒731-5135 広島市佐伯区海老園 2-17-9 原発はごめんだヒロシマ市民の会 木原省治

携帯 090-6837-8236 Eメール gomenda@bronez.ocn.ne.jp